

# まちの話題

## 松前地区芸能文化祭

3月4日、町民総合センターで「第42回松前地区春の芸能祭」が開催されました。

この芸能祭は、松前地区文化団体協議会（会長・佐橋寛孝）が主催し、毎年開催されているもので、町内各サークルなどが出演しました。

この日のために練習を重ねてきた舞踊や歌謡などに約100名の観客が盛んに拍手を送っていました。



## 函館大谷短大生が さくらまつりの課題分析

2月21日、松前商工会で、函館大谷短大コミュニケーション総合学科の鄭瞬玉准教授のゼミ生が、昨年5月のさくらまつり会場で行ったアンケート調査の分析結果を発表しました。

町内の観光関係者などが40名出席し、発表に耳を傾けました。

今回の調査では、まつり自体の評価は概ね高かったものの、さくらと松前城以外のPR不足や駐車場やトイレが少ないなどの課題や、学生達の提案を受け今後の参考となりました。



昨年さくらまつりの調査の様子

## ふるさと想いながしむ 函館松前会

3月4日、函館市で、ふるさと松前を離れ、函館市圏域に在住している方々で組織している函館松前会（会長・沼田順悦）の総会が開催され、会員約60名が出席しました。

初めに沼田会長からのあいさつと、石山町長や伊藤町議会議長から町政や松前の近況などの報告がありました。

そのあとの懇親会では、カラオケや舞踊などで楽しいひとときを過ごし、会の締めくくりには、ふるさと松前に想いを寄せながら、参加者みんなで松前桜音頭を踊りました。

皆さん、ふるさとの仲間と会つのを楽しみにしており、この日は、思い出話しに花を咲かせ、笑いの絶えない1日となりました。



**全道子どもかるた大会に  
松前から2チームが出場**

2月4日、市民体育館で行われた「第10回渡島管内地域子どもかるた大会」において、「松前千本桜」が小学生の部で優勝、「天の川」が中学生の部で準優勝を勝ち取り、2月18日、札幌市で行われた全道大会に出場しました。

「天の川」は1勝し、「松

前千本桜」は初戦敗退でしたが、悔いの残らないよう、全力で試合に臨んでいました。

**■出場チーム**

▽松前千本桜（小学生の部）

大西柚菜、藤井咲那

小野寺省吾、藤井悠那

▽天の川（中学生の部）

高橋叶和、熊谷明衣

渡邊凜音

**松前サッカー少年団が  
道南ブロック大会に出場**

2月24～25日の両日、北斗市総合体育館で「第28回全日本少年フットサル大会」函館予選が行われました。

町内からは「松前サッカー少年団」が出場し、3位を勝ち取り、道南ブロック大会への出場を決めました。

3月10日、登別市で行われた道南ブロック大会では、保護者も応援に駆けつけ、大きな声援が送られる中、選手たちは、日頃の練習の成果を出し切りましたが、惜しくもリーグ戦2試合と

もに敗れてしまいました。今回の経験を生かし、さらなる飛躍をするため、練習に励んでいます。



**■出場選手**

増川徠斗、池戸陽南

五十嵐亮太、千船善

高山湊士、藤岡勇人

木田健太、熊谷爽

渡辺大士、高橋石京

石戸珀



応援してくれた保護者に  
礼をする選手たち



全道大会の様子（札幌市）

**卒業を記念し  
「桜の名札づくり」体験**

このたび、町内各小学校で、桜の名札づくり体験が行われました。

今回の体験は、今年3月に卒業をする6年生（37名）を対象に行われました。

ふるさと学習応援団の竹田勝治氏（豊岡）を講師に、木札に筆で桜の名前を書く指導を受けました。

完成した木札は、卒業記念に松前公園の桜の木に吊り下げられます。



**加藤有郷先生から  
作品の寄贈がありました**

昨年5月、市民体育館で行われた「書道パフォーマンス」で、講師を務めていただいた加藤有郷先生から、ご自身で揮毫された作品を寄贈していただきました。

加藤先生は、芦別市生まれで、松前出身の書家、金子鷗亭先生と、弟子の金子卓義先生から指導を受けられ、数多くの大会で受賞するほか、展覧会に出品されています。



谿山野趣（けいざんやしゆ）

谿や野の自然の趣き。田舎らしい素朴で美しい風景を意味します。

作品は、市民総合センター1階に展示していますのでご覧ください。

松前町・福島町  
第3回合同演奏会

3月10日、松前中学校体育館で「松前町・福島町第3回合同演奏会」が行われました。

松前町からは松前中学校吹奏楽部と松前高校吹奏楽部、福島町からは福島町中学校吹奏楽部と福島町吹奏楽団が参加し、演歌やアニメの曲など、親しみやすい曲が数多く披露されました。また、アンコールに「ふるさと」が演奏されると、会場にいた200人が曲に合わせて歌い、会場がひとつになり、あたたかみのある演奏会となりました。



松前神楽

国指定文化財に



松前神楽は、平成30年3月8日付け官報第7218号の文部科学省告示第43号により、国の重要無形民俗文化財に指定されました。

これは、国民の風俗習慣・民俗芸能・民俗技術など、国民の生活の推移の理解のため欠くことのできない無形の民俗文化財のうち、特に重要なものとして次の5団体指定されたもので、道内では「アイヌ古式舞踊」

以来、34年ぶり、2件目の指定です。

指定された団体

- ▼北海道松前神楽連合保存会
- ▼松前神楽函館連合保存会
- ▼松前神楽小樽ブロック保存会
- ▼福島町松前神楽保存会
- ▼松前神楽松前ブロック保存会

松前神楽の来歴

松前神楽の起源は明らかではありませんが、『新羅之記録』によれば、寛永2年（1626）に、福山八幡宮の神楽屋を修造したという記録があり、この当時から神楽が行われていたとみられています。

また、『福山秘府年曆部』によれば、福山城の槍ノ間で延宝2年（1674）に初めて湯立神楽が行われたとあり、元禄11年（1698）正月、獅子神楽が行われたと記されています。

湯立神楽は、隔年の11月15日に行われ、幕末まで続きました。また、獅子神楽は、『白鳥氏日記』によれば、毎年正月12日に城内大広間で行われ、翌13日から21日までの間、寺町や城下の家々で門祓いを行い、21日には獅子頭を熊野社に送り届けたと記されています。松前神楽は、もと城内で行われ、その後、城下を中心に広まります。近世末から近代になり、

多くの漁民が鮭を追って日本海沿岸を北上するにともない、さらに広い範囲で行われるようになりました。

現在、渡島・檜山・後志そして留萌地方にも伝承され、各地の120に及ぶ神社で、例祭等に演じられています。

松前神楽の特色

松前神楽の演目は、初期より採物舞・巫女舞・湯立神事・獅子舞・翁舞が演じられ、演目の多くは今日まで継承されています。

神楽は、一間四方の中で舞うものとされ、舞と楽器演奏とで構成されます。

楽器は、大小の締太鼓と龍笛、手平鉦で、一人の演奏者が大小の太鼓をたたく場合があり、龍笛は指穴の一つを和紙などでふさぎ、六穴にして吹きます。

なお、松前神楽は、東北地方との関連をうかがわせる演目や演じ方が見受けられます。